

も、アブラッポネが2~3本足りないのではなからうか？。

小生の持ち時間は、後17~18年位。残された持ち時間内にどれだけの事が出来るやら。春蘭の花を後17~18回咲かせると、ぎょめいぎょじ、でお隠れ遊ばさなければならぬのかと考えると、情けなくなるが、これも致し方ない。最後に枕頭に侍るであろう倅に”ああ面白かった有難う”と眼を閉じたい、と考えているのだが、どうなる事やわからない。終

(2005. 7. 12. 新潟市曾野木2-13-9)

## 尾崎富衛先生からの年賀状

高橋 務

- 1994年、「ツエルマツ、ゴルナグラードよりマッターホルンを望む：ご夫婦」
- 1995年、「東蒲原郡鹿瀬町万治峠にて：ご夫婦」
- 1996年、「オタワ近郊ガテノーパーク：ご夫婦」
- 1997年、官製はがき
- 1998年、「カルガルーポー、西オーストラリア、バース北部」「ご夫婦」
- 1999年、「トゲミマツ（プリスリー・コーン・パイン）カリフォルニア・シェラネバダ：ご夫婦」
- 2000年、「トゲミマツ（プリスリー・コーン・パイン）カリフォルニア・シェラネバダ：ご夫婦」
- 2001年、「湯の平温泉の帰り道：ご夫婦」
- 2002年、「欧州西端ポルトガル山中にて、シャクヤク自生：ご夫婦」
- 2003年、「マダカスガル（ウオーターヒヤシンス）」「ご夫婦」
- 2004年、「モーツアルト生誕地の教会前で：ご夫婦」

私が尾崎先生と知り合うようになったのは、1979年に新潟県生物教育研究会の事務局で庶務を担当することになり、事業幹事の尾崎先生と、会運営の打ち合わせをもつようになってからである。

その後、尾崎先生が、新潟市から依頼された佐潟の植生調査（1985）、鳥屋野潟植物調査（1987）に声かけていただき、野外調査に参加した。

1988年には、先生は、新潟県生物教育研究会加茂大会で、「シクラメンの自生地を尋ねて」というテーマで、スライドで地中海ロードス島の植物を紹介されたが、よく知られた園芸植物の原産地での自生の姿は興味深かったし、先生の植物を尋ねる旅が世界に広がっていることに驚いたものだった。

その後しばらく、お付き合いは遠のいていたが、たまたま、近くに存在する知人が、アルプスの花を尋ねる旅で、尾崎先生と一緒にいったといい、後日、アルプスの花の写真が

まとまったので、尾崎先生宅で見るので一緒に行かないかと誘われて、ご自宅を訪れた。

アルプスの花の写真は、素晴らしかった。そして、旅の記念写真と旅行記（ほんのちらりと見せていただいただけ）は、奥様に任せておくのだとおっしゃったが、ご夫婦で花を尋ねるということと共有して、辺境の地を訪ね歩いていることに感動し、羨ましく思った。そこで、ついつい、私も海外の花を見にいきたいと、はかない希みを口にしたら、機会あれば一緒にいきましょうといわれ、植物を尋ねるのにいい旅行社を紹介された。

以来、毎年、世界に花を尋ね歩いた年賀状を頂いた。そして、私の海外に花を見に行きたいという希みは膨らんでいったが、一步を踏み出さないでいるうちに、いたずらに、時間が過ぎてしまい、先生は、冥界の花を尋ねて旅立たれてしまわれた。

尾崎先生からの花を尋ねての年賀状が届くことはなくなった。

## 「尾崎先生は父の同級生」

戸田 明

「尾崎先生と初めてお会いしたのは、大学四年春の与板だろうか？じねんじょ会加入はそれから四年後、当時は石沢先生に誘われ、タネツケバナ属があるからと参加しただけで、じねんじょ会メンバーも怖い人々の印象。その後も総会を除けば、採集会で尾崎先生とお会いすることは少なかつたと思いますが、20年ほど前か、父に山の話をしていたら、『尾崎は新潟中学の同級生だ』と。何かの折りに、尾崎先生にそう告げると、それからは乏しい機会ながらそれまで以上に優しく接していただき、勝手に『じねんじょ会での父』と思っていました。退職前に病床に伏し、その後は山歩きどころじゃなかった私の父は、よく『同級生の中でも尾崎が一番幸せだったなあ』などと言ってました。その父も尾崎先生よりほんの少し長生きしていましたが、つい先日亡くなりました。」

## 尾崎先生を偲ぶ

奈良場 正一

先生がお亡くなりになって、早くも1年余の月日が過ぎました。じねんじょの例会で最後にお会いしたのは、2003年大杉公園のお楽しみ会だったかと思います。

ちょうど当番を渡辺茂さんと二人でさせていただきましたが、新潟からの日帰りは無理とのお話で、渡辺さんがアクーレ長岡に宿を手配され、泊まりがけで奥様と二人で